

中国人を対象とした日本語コミックにおける オノマトペの理解に関する調査

A Survey of Onomatopoeia in Japanese Comics Created for Chinese Speakers

陳 焯^{*1}
Chen Yan

白水 菜々重^{*2}
Nanae Shirozu

松下 光範^{*1}
Mitsunori Matsushita

^{*1}関西大学 総合情報学部
Faculty of Informatics, Kansai University

^{*2}関西大学大学院 総合情報学研究科
Graduate School of Informatics, Kansai University

The goal of this research is to reduce language barriers in order to make the cultural value of comics more understandable to people in other countries. To achieve it, we focused on the translation of onomatopoeia in comics. Onomatopoeia plays an important role in conveying the details of a scene and of a character's emotions to a reader. In translated versions of Japanese comics, however, onomatopoeic words remain, in most cases, untranslated from Japanese. To grasp their influence, this paper investigates how Chinese speakers understand Japanese onomatopoeia in comics.

1. はじめに

2005年の経済産業省の発表によれば、日本のコンテンツ産業は世界全体の10%を占めるまでに成長している^{*1}。その中でも、コミックやアニメ、ゲームなどのサブカルチャーと呼ばれるコンテンツは世界各地で高い評価を得ており、その輸出先もアジアに限らず、ヨーロッパ、アメリカなど、多くの国に広がっている。

特に、日本のコミックは世界中で広く認知されるようになった。欧米では「MANGA」という言葉が浸透し、広く受け入れられている。また中国では、以前はコミックのことを「小人書」や「連環画」と呼んでいたが、日本のコミックが中国本土で流行してからは、日本語と同様に「漫画」という語が使用されるようになってきている。

海外で流通している日本のコミックは、人気作品の場合には原書(日本語)だけではなく翻訳版も入手できるようになってきている。そのため、日本語が分からない外国人であっても、母国語に翻訳されたコミックを楽しめるようになりつつある。その一方で、コミックの翻訳においては日本語の特徴に起因する問題が生じている。そのうちのひとつが、コミックのコマの中に描かれたオノマトペである。オノマトペとは音を表現する擬音語(ざあざあ、ドカンなど)および様態を表現する擬態語(こそこそ、べたべたなど)などの総称である。これらのオノマトペは、登場人物の動きの表現やその場面の効果音を代替する役割を担っている。コミックの中に現れるオノマトペは文字情報であるが、字体の表現などに工夫がされており、読者に臨場感を伝える重要な役割を果たしている。それにもかかわらず、多くの翻訳版コミックでは、図2に示すようにオノマトペは訳されていない。これらのオノマトペが理解されないままでは、日本人が日本語で描かれたコミックを楽しむのと同程度に、外国人が翻訳されたコミックの内容を十分に理解し楽しめる状況下にあるとは言い難い。

本研究の目的は、このような状況を改善し、日本人と同じように外国人が日本のコミックを楽しめる環境を創出することで

ある。本稿ではその足がかりとして、第一著者の母語である中国語に翻訳された日本のコミックを対象に、中国語圏の読者にとって、コミックにおけるオノマトペがどのように理解されているかについて調査した。

2. コミックにおけるオノマトペの翻訳

2.1 オノマトペが翻訳されない理由

翻訳版コミックでオノマトペが翻訳されない理由としては主に2つの原因が考えられる。

1つ目は、言語の特徴に起因するものである[陳08]。日本語のように多様なオノマトペが用いられる言語は多くないため、適切な訳語の選択が困難であると指摘されている。また、こうした言語特徴の差異によって、海外の読者が日本語コミックに特有のオノマトペ表現を重視していない可能性があるとして示唆されている[水野03]。

2つ目は、技術的・コスト的要因である[猪瀬10]。オノマトペは登場人物の動きを表現したり効果音の役割を代替しているため、フキダシの中ではなく、絵の一部として書き込まれることが多い。そのため、これらを翻訳するためには、コマの中からそれらを消したり、他の文字に変更したりする必要がある。このような処理はそのコマ自体を書き換える手間が求められるため容易ではなく、文字のみの翻訳に比べてコストもかかると考えられる。

後者の要因に関しては、電子出版が進み、計算機でコミックコンテンツが動的に構成・操作できるようになることで低減される可能性があると考えている。しかし、前者の要因に関しては一朝一夕に解決できるものではない。そこで、現状でコミックのオノマトペが外国人の読者にどのように受け入れられているかを調査し、代替手段でオノマトペの効果を伝えることについて検討する必要がある。このような背景の下、中国人を対象とし、コミックに登場するオノマトペに対する意識や、多言語話者の視点で見た翻訳における問題点を整理する。

2.2 中国語のオノマトペ

中国語には擬態語という品詞の概念が存在しないため、オノマトペは擬音語のことを表している。また、その擬音語も付随的な存在のように認識されており、現状ではあまり重視されているとは言えない[李06]。

連絡先: 松下 光範 関西大学総合情報学部 〒569-1095 大阪府高槻市豊仙寺町2-1-1 Tel: (072) 690-2437 Fax: (072) 690-2491 e-mail: mat@res.kutc.kansai-u.ac.jp

^{*1} http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seisan/cool_japan/pdf/011_05_00.pdf

中国の総合辞書である「辞海」によれば、中国語における擬音語は「象声詞」とも呼ばれる。例えば、静かで穏やかな水の流れは「潺潺 (chanchan)」、カッコウの鳴き声は「布谷 (bugu)」と表現する。中国の擬音語は日本語に比べて多義なものも多く、1つの擬音語が表現する実態音が日本語に比べて多種にわたっている [武田 01]。

上述したように、中国語には「擬態語」という言葉の概念がないため、オノマトペは擬音語のみで構成されているが、擬態語に相当する形容詞は多少は存在する [金田一 78]。例えば、「熱騰騰 (あつあつ) や「気沖沖 (かんかん) などがそれに相当する。一般的な形容詞に比べて形式が特徴的 (上記の例であれば XYY の形式) であるため、普通の形容詞とは区別しやすいとされている。呂はこれらを「生き生きとした形式の形容詞」と表現している [金田一 78]。

3. 日本語が理解できる中国人を対象とした調査

本研究では、日本に滞在しながら日本語を学ぶ留学生を中心とした中国人と、日本語の学習経験が無い中国人を対象としてアンケート調査を行った。本章ではまず日本語が理解できる中国人を対象とした調査について述べる。この調査は日本に滞在しながら日本語を学ぶ留学生を中心とした、中国人を対象とするアンケートである。このアンケートでは日本語が理解できる中国人にとって、オノマトペは重視されているのか、オノマトペは日本語のままでよいと思われているのか、もしくはオノマトペを中国語に翻訳するべきなのかについて、明らかにするために行った。

3.1 調査の概要

本アンケートは日本に滞在しながら日本語を学ぶ中国人留学生 35 名 (男性 18 名、女性 17 名) を対象に行なった。日本に来てからの在留期間は平均 4.5 年 (最長 9.1 年、最短 2.4 年) であった。いずれも日常的な日本語の読み書きができる能力を持っており、回答者中 22 名が日本語能力試験 1 級の資格を持っていた。出身地は統制されなかった。アンケートは質問紙調査法で行った*2。このアンケートでは中国語に翻訳された日本語コミックの一部を提示し、その印象について尋ねた。この素材には ONE PIECE (集英社) の第 10 巻 pp. 8-25 と、ドラえもん [ロボット編] (小学館) の p. 9, 32, 36, 39, 41, 129, 168 を使用した。

本調査ではオリジナルの日本語コミック (図 1) を図 2~図 4 のように書き換えて作成したものを利用した*3。これらを、(1) オノマトペが日本語のままになっている状態 (図 2)、(2) オノマトペのある状態 (図 2) とオノマトペを消した状態 (図 3) の比較、(3) オノマトペが中国語に翻訳された状態 2 と日本語のままの状態 (図 4) の比較、の 3 つのパターンで提示した。

3.2 結果と考察

提示パターン (1) のコミックを各回答者に読んでもらった後、そのコミックから一枚のイラストを用いて効果音のことについて説明し、「先ほど漫画を読んだ時に、こうした効果音にも目を通しましたか」(質問 1) と尋ねたところ、35 名のうち 24 名 (69%) の回答者が目を通したと回答した。効果音に目を通さ

なかったのは 9 名 (26%)、分からないと回答したのは 2 名であった。69% の回答者が効果音に目を通したと回答したことから、読む際にオノマトペが無視されていないことが伺える。質問 1 で否定的な回答を行った 9 名にその理由を尋ねたところ、「ストーリーの内容と関係ない」や「効果音にあまり意味がない」などの意見が見られた。

コミックの効果音に目を通した 24 名を対象にして、「漫画の中の効果音の意味が理解できましたか」(質問 2) と尋ね、5 段階評価で回答を求めたところ、理解できなかった人 (1, 2 を選択) は 6 名 (23%) で、理解できた人 (4, 5 を選択) は 12 名 (44%) であった。回答者全員が日本語の上級者であるとはいえず、コミックに出ているオノマトペを完全に理解できる人は意外に少ないことが分かる。

次に、中国人の日本語学習者にとって、日本語のオノマトペはどれくらい難しいと感じるか (質問 3) について 5 段階で回答してもらった。その結果、簡単だと感じる人 (1, 2 を選択) は 4 名 (12%) で、難しいと感じる人 (4, 5 を選択) は 21 名 (60%) であった。併せて、オノマトペのどこが難しいと思っているのかについて自由記述にもらった。得られた記述を集約すると (1) 種類の多様性、(2) 表現同士の類似性 (e.g., 「ばたばた」と「ばたばた」など)、(3) 意味推測の困難さ (漢字が使われなため)、(4) 母国語の表現との非類似性、に大別された。これらの要因が、外国人のオノマトペ学習を阻害していることが伺える。日本人は普段から何気なくオノマトペを使っているが、日本語にはオノマトペの数が多く、表現毎に微妙なニュアンスの違いも存在する。質問 2, 3 の結果は、日本語のオノマトペが多く日本語学習者を困らせており、学習の上で大きなハードルの一つになっていることを示唆している。

提示パターン (2) では、オノマトペのある場合とない場合のコミックを対比させることで、日本のコミックの効果音に対する印象を調査した。まず、「『効果音のある漫画』と『効果音のない漫画』を見比べて読むと、どちらの方が好ましいと感じましたか」(質問 4) と尋ねたところ、オノマトペがある方が好ましいと回答した人は 29 名で、全体の 83% を占めた。オノマトペがない方が好ましいと回答したのは 1 名で、残りの 5 名はどちらとも言えないと回答した。このことから、オノマトペがあるほうがコミックをより楽しむことができると考えられる。質問 1 で否定的な回答を行った 9 名についても、この提示パターンでは半数以上の回答者が効果音のある方が好ましいと回答した。このことから、一見、オノマトペが無視されているように見えるが、実際には読者は自分で意識せずに、コミックのオノマトペを活用し、楽しんでいることが伺える。

更に、「日本の漫画の効果音は豊富だと思いますか」(質問 5)、「漫画に効果音をつけることで迫力が出るとだと思いますか」(質問 6)、「漫画に効果音をつけることでストーリーの臨場感が高まると思いますか」(質問 7)、「漫画に効果音をつけることで登場人物の動きが分かりやすくなると思いますか」(質問 8)、「漫画に効果音をつけることでストーリーがよりおもしろくなると思いますか」(質問 9) の 5 項目について 5 段階評価で尋ねた。これらの設問に 1, 2 を選択した人はわずかで、5 を選択した人は各々 66%、49%、43%、63%、43% と最も多かった。これは、効果音の意味がはっきり理解できない、効果音に興味がない、と考えている人もコミックに効果音をつけることで、コミックを一層楽しめると考えていることを意味する。このことから、コミックにオノマトペが必要であるのは確かだろう。

加えて、「効果音は漫画に必要なと思いますか」(質問 10) と質問したところ、4, 5 を選択した人は 88% (31 名) を占めていた。オノマトペはコミックの構成要素の一つでもあり、すで

*2 本調査においては、「オノマトペ」という言葉を出さず、代わりに「効果音」という言葉表現を用いることにした。その理由は、ひらがなの「オノマトペ」より漢字の「効果音」の方が中国人にとってより理解しやすいためである。

*3 これらの図は説明用のものであり、実際の実験は市販のコミックを利用した。



図 1: 日本語オリジナル版

図 2: セリフのみ翻訳

図 3: オノマトペを消去して翻訳

図 4: 全て中国語に翻訳

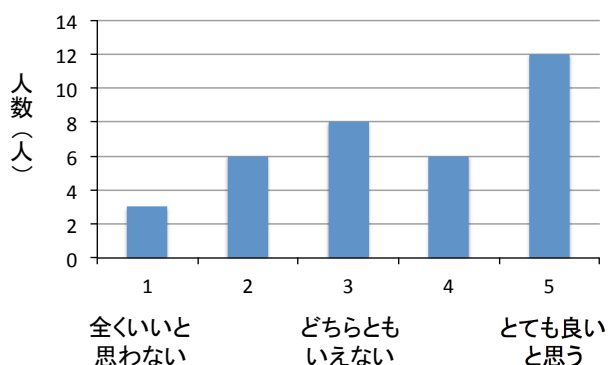


図 5: 漫画の効果音は日本語のままでいいと思いますか

に日本のコミックに欠かせない存在として認知されていると言えよう。

提示ボタン (3) においては、「日本の漫画の効果音を全て中国語に翻訳すれば同じような効果が出せると思いますか」(質問 11) と尋ねたところ、9% (3 名) の回答者は肯定的な意見 (4, 5 を選択) を示し、69% (24 名) の回答者が否定的な意見 (1, 2 を選択) を示した。このことから、日本語が分かる外国人にとって、翻訳が適切ではない翻訳版より原書の方がより面白く感じられる傾向が伺える。

また「漫画の効果音は日本語のままでいいと思いますか」(質問 12) と尋ねたところ、図 5 に示すように選択された回答にばらつきが見られた。このアンケートの回答者は日本語が理解できるため、原書でも問題がなかったためと考えられるが、日本語のオノマトペが難しく理解できない時もあるため、適切に翻訳されていれば翻訳版でも拒否されないと考えられる。

最後に、効果音が日本語のままでいいと思われる回答者 (4, 5) に対して、その理由を尋ねるところ、下記のような意見が見られた。

- 日本語の方がもっと理解しやすい。中国語の場合は、ある部分が無理やり翻訳されたと感じる
- 日本語でしか表現できないものが多く、翻訳すると意味が変わる場合もある
- 効果音の形だけを見ても人物の動作やストーリーの雰囲気分かる

- 翻訳されると、たまにニュアンスが違ったりする場合もあるので、原作に従った方がいいと思う

「日本語でよかった」と思われている理由を考察すると、その主たる要因は、日本語が適切に訳されていないことだと考えられる。すなわち、翻訳が不適切な場合には逆効果を生み、日本語の分かる人に好まれない結果を招いていると推察される。

また、回答者の皆が日本語の上級者であるため、オノマトペの部分は意味が完全に理解できなくても、言葉のニュアンスとストーリーの流れに沿って、ある程度言葉の意味を推測できると思われる。つまり、日本語学習者にとって、翻訳版より原書の方が読みやすいと考えられる。

3.3 得られた知見

本調査では日本語を学習する中国人を対象として、日本語コミックにおけるオノマトペの理解に関する調査を行った。その結果、日本語が理解できる中国人は、コミックにおけるオノマトペを無視することはないが、オノマトペの不適切な翻訳による意味のずれやニュアンスの変化などが原因で、翻訳版より原書の方が好ましいと考えている傾向が確認された。このことは、オノマトペを単に訳すことが必ずしも最適ではないことを示唆している。

4. 日本語学習経験がない中国人を対象とした調査

本調査は日本語学習経験がない中国人を対象としたアンケートである。この調査は、日本語が理解できない、かつ普段マンガを読む習慣がない人を対象として、日本語のオノマトペがどのように感じられるかを明らかにするために行った。

4.1 調査の概要

回答者数は中国福建省在住の男女 30 名 (男性 6 名、女性 24 名) であった。回答者全員日本語が分からない、もしくは、少し分かるという程度であったため、質問応答は全て中国語で行った。アンケートは質問紙調査法で行った。

このアンケートでは、中国語に翻訳された日本語コミック 2 つを利用した。用いたコミックは中国語版の ONE PIECE の第 10 巻 pp.169-187 と、ドラえもん [ロボット編] の pp. 59-65、213-219 ページであった。

このアンケートにおいて、コミックの提示ボタンは、(1) オノマトペが日本語のままの状態 (図 2)、(2) オノマトペが中国語に翻訳された状態 (図 4)、の 2 つとした。ボタン (2) のコミックを提示する前に、一回目に見せたコミックは擬音語、

あるいは状態を表す言葉が日本語のままになっていることを説明した。それらを比較することでオノマトペに対する受け取り方に変化が生じるかについて調査した。

4.2 結果と考察

まず、パタン (1) のオノマトペが日本語のままの状態であるコミックを読んでもらい、「違和感を感じましたか」(質問 1) と尋ねたところ、30 名の内、24 名 (80%) の回答者が何も違和感を感じなかったと回答した。このことから、多くの回答者が日本語オノマトペの存在に気づいていないことが分かった。

「違和感を感じた」と回答した人を対象に、「どこに違和感を感じましたか」(質問 2) と尋ねたところ、「日本語が混ざっている」、「日本語の部分は動きを表す言葉かな」といった回答が得られた。これは言葉の意味が理解できなくても、絵や台詞と一緒に並んでいれば、その言葉が何を表しているかをある程度推測できたためだと考えられる。このことから、コミックにおけるオノマトペが音声以外の役割、言わば視覚効果の役割を果たしていることが伺える。

次に、パタン (2) のコミックを読ませる前に、オノマトペに注目させるため、先程読んだコミックの中に日本語が混ざっていること、そしてその殆どが擬音語ないし状態を表す言葉であることを説明した。

その後、再読してもらい「前回と比べて何か違いを感じましたか」(質問 3) と尋ねたところ、14 名 (47%) の回答者は肯定的な意見を示した。これらの回答者に「何を感じましたか」と質問し、下記のような意見を見た。

- 前回より人物の感情がより理解できた
- 擬音語への関心が高まった
- 翻訳した方が好きだ

このことから、オノマトペに関心がなかったのは、日本語が理解できないことがその一因だと考えられる。日本語が分からない外国人にとってオノマトペは重視されにくい、意味を理解することができればより作品を楽しむことができることを示唆している。

ただし、その内の一人から「言葉の意味が分からないから、いつも想像に任せている。意味が分かっちゃえば、かえって想像しにくくなる」という回答を得た。これは、日本語の意味が分からないからこそ、自分がとらえた感覚を自由に発想できることを示唆している。コミックのオノマトペは文章におけるオノマトペと違って、形にも様々な工夫が施されている。言葉が通じなくても、文字の形を見るだけで、何らかの感覚が伝わってくる。上記の「日本語の部分は動きを表す言葉かな」などと回答したのも、文字の形に宿されている何かを感じたからと考えられる。

最後に、「効果音はコミックに必要な要素だと思いますか」(質問 4) と質問したところ、図 6 に示すように、過半数の回答者が必要だと回答した。一見、コミックにおける日本語のオノマトペが重視されていないように見えるが、パタン (2) のコミックを読んだ後に、「翻訳した方が好きだ」のような意見を示す回答者が意外に多かった。確かに、言葉の意味が理解できないので、読み飛ばしや無視する人も少なくない。だが、実際のところは、自分にも気づいていないうちに、オノマトペを絵の一部としてとらえ、何気なく楽しんでいることが伺える。

4.2.1 得られた知見

本アンケートは日本語学習経験がない中国人を対象とした調査である。日本語の学習経験がない中国人は、日本語が理解

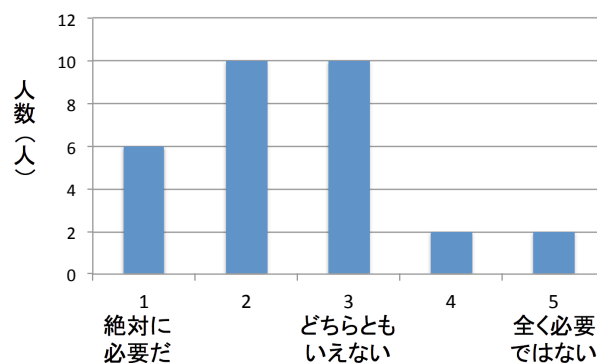


図 6: コミックにオノマトペが必要ですか

できないため、コミックにおける日本語のオノマトペを重視しおらず、読み飛ばす場合が多かった。ただし、その言葉を翻訳すれば、オノマトペへの関心が高まり、コミックをより楽しめることが伺える。オノマトペが翻訳されていれば、効果音としての役割を果たせ、その効果音がまさか耳に届くように、よりコミックを楽しませることができると考えられる。

一方、オノマトペは文字としての役割の他に、絵の一部としても扱われている。今回のアンケートにおいて、ただ 1 名の回答者がそれに気づいた。この点に関して今回のアンケートでは触れなかったが、今後の研究では再検討する必要があると考えられる。

5. おわりに

本研究では日本人と同じように外国人が日本のコミックを楽しむ方法を検討するための足がかりとして、日本のコミックにおけるオノマトペの翻訳に伴う困難さに着目し、日本語の学習経験がある中国人と学習経験がない中国人をそれぞれ対象として、日本語コミックにおけるオノマトペの理解に関する調査を行った。今後、更に調査を進め、コミックの翻訳のための指針について纏めていきたい。

参考文献

- [猪瀬 10] 猪瀬 博子：マンガにみる擬音語・擬態語の翻訳手法，通訳翻訳研究，No. 10，pp. 161–176 (2010)
- [李 06] 李 鏡儿：現代漢語擬声詞研究 (Onomatopoeias in Modern Chinese)，PhD thesis，復旦大学 (2006)
- [金田一 78] 金田一 春彦：擬音語・擬態語概説，浅野鶴子 (編) 擬音語・擬態語辞典，角川書店 (1978)
- [水野 03] 水野 あゆ：日本語と中国語におけるオノマトペについて — 翻訳漫画の比較から，言語と交流，Vol. 6，pp. 129–279 (2003)
- [陳 08] 陳 世昌：有關日中兩國語之擬聲語，擬態語音韻組織的探討 (オノマトペの音韻形態に関する日中両言語の特徴)，台灣日本語言文藝研究學會第 8 回定例學會，pp. 1–15 (2008)
- [武田 01] 武田 みゆき：擬音語の語彙化に関する日中両言語の特徴，多元文化，Vol. 1，pp. 79–90 (2001)